

地域医療：感染症診療はやりがいがある！

流行性耳下腺炎の地域内流行と 流行終息後調査で得られた知見

◇ 日本の予防接種体制は遅滞しています。水痘や流行性耳下腺炎(ムンプス)の流行が続いています。

◇ 智頭町で流行したムンプスの流行を集計したことで、従来の理解と異なる知見が得られました。

◇ 病状が重く、保護者負担が大きいきことが分かりました。

◇ 家族の発症が多いことも分かりました。

◇ 智頭町全保育園児では発症率 85%以上でした。(国立感染症情報センター

には、不顕性感染率が 30~35%の記載です。)

◇ 地域に根差した医療から得られた知見です！

ムンプスの病状は軽い？ 保護者の負担は軽い？

- ★ 保育園においては、大きな規模での流行がある。
- ★ 3歳未満児では、39℃以上が過半数を占めた。
- ★ 子どもの高熱、疼痛に対する家庭看護負担に加えて、髄膜炎等の合併症への不安が保護者にある。

★ 保育園を休んでいる間、家族構成によっては、就業が出来ない親がいる。きょうだいも順々に発症するとその期間が長期になり、負担が増大する。

★ 発症し、就業が出来ない親(父・母)が出てくる。親の発症による就業停止・経済損失がある。

ムンプスの不顕性感染率は？

智頭町S・A保育園におけるムンプスの流行では、2園合計で発症率が85%を越えていた。クラスによっては、発症率が100%であった。2園における不顕性感染率は、15%未満であった。従来報告より、高率に発症していた。

生活者の幸せを担う地域医療の実践を誇りとして

国民健康保険智頭病院

〒689-1402 鳥取県智頭町 TEL.0858-75-3211